

I 実 践

1 研究主題 豊かな心情や人権尊重の精神を育み、認め合い、助け合う子どもの育成

(1) 主題設定の理由

人権教育は、学校の教育活動全体を通して人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動である。本校では、『子ども一人一人に人間尊重の自覚をもたせ、認め合い、助け合う子どもの育成』を人権教育の目標としている。児童は、全体的に明るく素直であるが、自己中心的であったり相手を思いやる配慮に欠ける言動をしたりする児童も見られる。そこで、学校の教育活動全体を通して、相手の立場を思いやり、認め合い、助け合う子どもを育成することが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 実践内容

ア 好ましい人間関係づくり

イ 人権教育の視点に立った学習活動づくり

ウ 人権尊重の視点に立った環境づくり

2 実践内容

(1) 好ましい人間関係づくり

ア Q-U の実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別に支援を必要とする児童を把握するため、3年生以上の各学級で5月・10月に実施している。5月の実施結果をもとに、今後の対策を計画・実行し、10月は前回と比較し、更に改善を図っていく。

イ 学校生活アンケートと面談の実施

毎学期実施する学校生活アンケートをもとに面談を行い、交友関係の把握やいじめ、生徒指導の諸問題の早期発見と早期対応に生かすことができている。

ウ 児童と教師及び児童間の皆遊

本校では、休み時間に教師と児童と一緒に外遊びを行っている。教室の中だけでは分からない児童の様子や交友関係も把握でき、一人一人へのきめ細やかな支援に役立っている。

エ 様々な人とふれ合う体験

- ・体の不自由な人（福祉体験・手話体験・水戸養護学校との居住地校交流など）
- ・高齢者（昔遊び・横笛クラブ・運動会・敬老会など）
- ・外国の方（ALT・海外からの体験入学・本校の外国籍の友達など）
- ・様々な職業人（漁業体験・町探検・JAL 航空教室・新聞社見学・夢アスリートなど）
- ・異年齢（学校探検・6年と1年の交流・園児1日入学・多賀中生との交流など）
- ・地域の大人（子ども会球技会・鮎川溪谷探勝会・成沢ささら舞・ダンボールハウス宿泊など）

オ グループエンカウンターやアサーショントレーニングの積極的な活用

学級の実態や児童の発達段階を考慮しながら、好ましい人間関係を構築するための雰囲気づくりやスキルを学ぶことが大切と考え、積極的に取り入れている。

【学級活動「わたしってどんな人」】

＜ねらい＞
よさに気づき、自己肯定感を高める。

友達の受容的な言葉

自己発見カード

わたしって どんな人？

名前

わたしは、
めんどくさがりです。

友達が見て気づいたことや思ったことは？
めんどくさい。だって バックをつくらなくていいもん。

私

私は あきっぱい
私は 人見知り
私は ひっこみじあん
私は めんどくさがり
私は ジャイコとよばれます
私は 運動しんけいが悪いです
でも 友達は
ひっこみじあんじゃないって
言ってくれた
バック作ったりしてすごいつて
言ってくれた
私は 手芸が得意
私は 小さい子の
めんどろを見るのが好き
いい所もあった
友達の言葉で 自信がついた

[自分のよさが書けない A 子]
[視点を変え、自分のよさに気づく]

(2) 人権教育の視点に立った学習活動づくり

ア 福祉体験学習

盲導犬（アイメイト）と共に生活する地域の方をゲストティーチャーとして招待し、講話をいただいた後に、目の不自由な方へのサポートの仕方を親子で体験した。また、アイマスク体験や車椅子体験、シニア体験も行い、体が不自由な方にとって町には不便な場所が多いことを知った。これらの福祉体験学習を通して、体が不自由な方への共感的理解を深め、だれもが住みよい町づくりの大切さに気付くことができた。



目の不自由な方は色々なことに困っていると気付きました。これからは 声をかけるようにします。障害物や段差のない町にしたい。

車いすは自分で動かすと、とても力いるので大変でした。車いすの方が段差で困っていたら手伝ってあげたいです。



高齢者の方はあれだけの重さや疲労を感じていると分かりました。ぼくのおじいちゃんもあんな風に感じて歩いているんだ。大変だなと思いました。

イ いのちの教育

助産師の講話を通して、人の誕生のしくみや命の大切さを学び、児童一人一人の自尊感情を高めることをねらいとする学習である。4年生の児童と保護者が参加して行われた。

ウ 道徳の授業公開（全学年「道徳」）

授業参観では、保護者に道徳教育や人権教育への理解を促すことをねらいとして全クラスが道徳の授業公開を行っている。また、学年だよりで啓発内容を掲載したり教室に掲示したりすることで、学習したことが意識化だけにとどまらず道徳実践力へとつながるように工夫してきた。

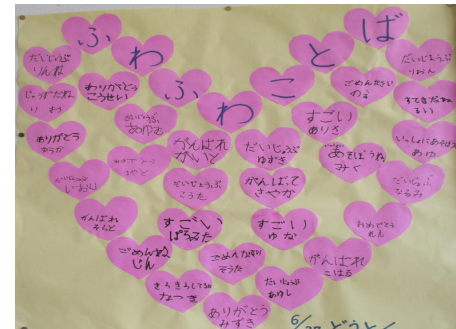
【道徳コーナー】5年生「心の木」



(左) 5年生の「心の木」には友達からのメッセージが書いて掲示されている。葉の右側のメッセージがどんどん増えて、心が豊かに育つことを期待している。

(右) 1年生は、道徳の時間に「ふわふわことば」と「ちくちくことば」を学習した。たくさん「ふわふわことば」で優しい気持ちを育てている。

1年生「ふわふわことば」



エ 「人権メッセージ」「人権書道」「人権ポスター」「人権集会」への取り組み（全学年）

オ 人権集会「ハッピー集会」の実施

カ 人権教育の視点で教科指導を实践

【道徳「人権について考えよう」】

活動のねらい	- 自己の生活をふり返り、友達の立場や思いを尊重して生活することの大切さを理解する。 - 平和で幸せな未来をつくりたいという思いを人権メッセージに書くことができる。
1 参加者	学級担任がファシリテーター、6年児童37名
2 内容	(1) アイスブレイキング（イエスノークイズ） (2) 「人権チェックカード」で自己の生活をふり返る（第30集P18） (3) 「エピソード1」（P19）の人権に対する考え方についてブレインストーミングする (4) 「人権メッセージ」を書く（第30集P24） (5) 「わたしの妹」の読み聞かせを聞く (6) ふり返り

<人権チェックの感想>

友達を「～さん」と呼ぶことも人権に入ると思った。授業以外でも、呼べるようにしたい。	チェックをしたら、自分の直す所がよく分かりました。◎になるよう頑張ります。	これからは、相手の気持ちをよく意識し、友達や周りの人を大切にできたらいいと思います。	だいたいできていた。今まで通り相手のことをよく考えて人権に気をつけて生活したいと思いました。
---	---------------------------------------	--	--

キ 保護者会での参加体験型人権学習

活動のねらい	- 日頃何気なく子どもに発している言葉を見つめ直し、よりよい親子関係を築こうとする。 - 子どもの気持ちや人権について考え、子どもの自主性や社会性を育てる。
1 実施時間	20分。
2 場所	教室
3 参加者	学級担任がファシリテーター、保護者25名
4 内容	(1) 声を出さずに1月から誕生日順に1列に並ぶ 前から順に3～4人グループを作る (2) 演習「育てる思い」（「人権教育指導資料」第35集P13） (3) 児童の権利に関する条約について知る。（第26集P18「子どもの権利条約」） (4) ふり返り

(3) 人権尊重の視点に立った環境づくり

ア 好ましい言語環境づくり

相手の立場を尊重し、「さん」付けで呼び合い、全児童、全職員が丁寧な言葉遣いで話している。

イ 好ましい生活環境づくり

「お掃除は心磨き」をキャッチフレーズに清掃活動に取り組み、朝も日直による「清めの掃き掃除」を行っている。トイレや廊下にも花が飾られ、清潔でうるおいのある環境が実現できている。

ウ 人権コーナーの設営

学校以外にも学年や学級に人権コーナーを設け、課題に気付くことができるよう支援してきた。

3 成果

- (1) Q-U集計結果や学校生活アンケートによる児童の実態把握は、いじめ等の問題の未然防止に役立った。
- (2) 児童の人権啓発活動への取り組みを通して、家族や友達、多くの人々へ感謝と思いやりの気持ちをもつことができた。また、自分の幸せを再認識し、人のために尽くそうとする気持ちを抱くことができた。
- (3) 人権が尊重される環境やよさ・頑張りの認め合い、「未来パスポート」の活用で自己肯定感が高まった。
- (4) 様々な人とのかかわり合い、相手の立場や気持ちを考える活動により自他の立場を尊重する雰囲気醸成されている。また、スキルトレーニングにより自他の人権を守る具体的な行動を学ぶことができた。
- (5) 児童間、児童と教師間の人間関係がより円滑になり、人権が尊重される教育の場が実現されてきている。

II 今後の課題

- (1) 人権を守る実践行動を育成するための教育活動の見直しと改善
- (2) 人権に関する理解と認識を高め、指導力の向上を図る職員研修の充実
- (3) 家庭や地域と連携した啓発活動の推進